

ブラジル、アマゾン地方でのマヤロウイルスの状況

2011年2月20日 ProMED 情報(The Compass Newspaper)



アマゾナス Amazonas 州の州都マナウス Manaus 在住の発熱患者の血液 600 検体を調べたところ、33 検体でマヤロウイルス Mayaro virus の存在が確認されました。マヤロ熱は、アマゾン地方では、デング熱、黄熱、オロプーシェ熱 Oropuche に次いで4番目に多い感染症です。マヤロ熱が最初に報告されたのは1955年で、パラ Para 州で流行が発生しました。これまで数千人の患者が報告されていますが、アマゾン地方に限定され、都市部での報告はなく、死亡患者は報告されていません。今後、都市部に生息しデング熱の媒介蚊であるネツタイシマカ *Aedes aegypti* mosquito にウイルスが適応し、国中に感染が広がる危険性があります。

〔ProMED 調整者〕

マヤロ熱は、トガウイルス科のアルファウイルス属に属するウイルスによっておこる人畜共通感染症です。南アメリカの熱帯雨林地域で流行し、自然宿主は霊長類で *Haemagogus* 属の蚊によって伝播します。デング熱と臨床症状が似ているため、検査を行わない場合、多くのマヤロ熱患者はデング熱と診断されています。